（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	019300072		
法人名	株式会社　すまいるふらの		
事業所名	ごりょうの丘グループホーム　菜の花ユニット		
所在地	富良野市字下御料		
自己評価作成日	令和4年9月7日	評価結果市町村受理日	令和5年4月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193000072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	合同会社　mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和4年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者様個々の思いや考え、笑顔・安心して生活できる場所を創る。グループホーム目標に対して力を入れ取組みを実施している。ごりょうのグループホーム周囲は桜が満開になる朝日ヶ丘公園、富良野スキー場が見渡させ大自然に囲まれており静かな環境に立地しております。今年度も新型コロナウイルスが流行、面会なども状況を見ながら外出共に実行、地域との交流なども今年は実施しております。今後も、利用者様個々の趣味や嗜好などに合わせた取組み、行事なども取り入れながら心身機能の低下に留意・維持などに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は最寄りの駅から車で約10分程で、自然豊かな丘陵地帯にあります。広大な敷地内には系列の各種福祉施設があり、それぞれの利用者とは地域住民として、ぶどう棚や野菜畑、花壇、遊歩道がある中庭を散策中に挨拶を交わしたり、行事等で交流があります。面会や外出に制限ある中でも感染予防対策を徹底して、中庭での「わんわんショー」では犬の芸を楽しみ、事業所のマスコット犬や併設の託児所にいる職員の子供達との触れ合い、初詣の代替としておみくじを用意し利用者に引いてもらったり、苗植えから収穫までの楽しみ、お誕生会や季節の行事では飾り付けや趣向を凝らした献立、ドライブで花見、地域のイベントへの参加などで、利用者の五感刺激に繋げています。運営推進会議は多くの家族の参加があり、職員とのお茶会の時間も設け感謝の言葉が得られ、また、他の推進委員からも数々の意見が寄せられています。職員は、さらなる知識や技術の習得に努めています。

Ⅴ　サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる（参考項目：23、24、25）		1　ほぼ全ての利用者の
			2　利用者の2/3くらいの
		○	3　利用者の1/3くらいの
			4　ほとんどつかんでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18、38）	○	1　毎日ある
			2　数日に1回程度ある
			3　たまにある
			4　ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
		○	3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36、37）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
		○	4　ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30、31）	○	1　ほぼ全ての利用者が
			2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない

	項　目	取組の成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9、10、19）		1　ほぼ全ての家族と
		○	2　家族の2/3くらいと
			3　家族の1/3くらいと
			4　ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2、20）		1　ほぼ毎日のように
			2　数日に1回程度
			3　たまに
		○	4　ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1　大いに増えている
			2　少しずつ増えている
		○	3　あまり増えていない
			4　全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11、12）		1　ほぼ全ての職員が
			2　職員の2/3くらいが
		○	3　職員の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての利用者が
		○	2　利用者の2/3くらいが
			3　利用者の1/3くらいが
			4　ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1　ほぼ全ての家族等が
		○	2　家族等の2/3くらいが
			3　家族等の1/3くらいが
			4　ほとんどできていない

（別紙４－１）（ユニット１）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念・グループホーム目標を踏まえ、職員全員が向上心を持ち日々実践に取り組みをしております。 来訪者にもみて頂けるよう掲示してあります。	地域密着型事業所としての役割を認識した法人理念「4つの誓い」を共有し、さらに笑顔をキーワードとした年度目標を策定しています。理念をパンフレットや名札の裏面に記載し、事業所内に掲示することで内外に基本姿勢を示しています。職員は、理念と目標を意識してケアに臨んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の方と交流を持ち、7月には神社祭を実施。町内会のふれあいサロン、運動会などにも参加させて頂き交流させていただいています。	感染症予防対策を講じて地域のイベントに参加し、周辺の清掃活動は法人全体で定期的に行っています。系列事業所の利用者とは地域住民として行事等で交流し、併設の託児所の子供達との触れ合いもあります。地域からの介護相談には丁寧に応じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、介護職講習会等地域の方も参加できる研修を開催しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に行っており、自治会長、民生委員役員、市の担当職員、入居者様、ご家族様です。行事や現状活動、事故報告、看取り報告などをし、アドバイスなどを頂いております。	会議は書面を含め年6回開催しており、利用者状況や職員体制、感染症対応、家族と職員のお茶会など、出席率が高まる内容になっています。看取りケアの状況説明時は、退去した家族が思いを述べています。推進委員からは各種情報や議題等について、多くの意見が寄せられています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に参加していただき、貴重なアドバイスをいただいています。	行政とは情報交換等で良好な関係にあります。運営推進会議の委員である市職員や認定調査等で来所の担当者とは情報や意見交換があり、利用者の安定した生活を支えています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間防犯上の施錠は行っておりますが、それ以外の時間帯は常に開放し出入りは自由となっています。外にお一人で行かれる場合は職員が付き添うようにしています。	ユニット会議で適正化委員会と研修会を適宜行い、身体拘束や虐待をしないケアの周知徹底を図っています。職員間においても注意し合える関係を築いています。職員のストレス軽減にも取り組み、利用者との信頼関係強化に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・日々の介護、支援での言動を職員間で注意し、また、入居者様の身体状況の変化などに注意深く健康チェックし、特変は報告、記録、対応をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・社内研修に参加し権利擁護に関する知識向上を目指している。又、日々の暮らしの中で必要性があるリスクが考えられる時点で相談ができる体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居者様、ご家族様に対しわかりやすく説明させていただき、いつでも質問、疑問に細やかな対応を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で質問や・要望などの意見交換を行っています。又、ご質問・ご意見用紙を郵送し返送してもらい運営に反映させていただいています。	毎月発行のホーム便りは、写真にコメントを付け日常が垣間見えるような内容になっています。面会時や電話、運営推進会議等で家族の要望や意見を傾聴し、利用者の要望も含め、可能な限りの対応に努めています。家族は、職員の支援に感謝の言葉を述べています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のユニット会議で意見交換や提案を聞き、仕事がしやすい環境を整えています。	代表者や管理者は、日常的に職員の意見や意向の把握に努めています。人事考課での面談時には、個人目標の進捗状況の確認と共に要望等も受けとめています。職員は、居室担当の他に行事など各部門を分担し、向上心を高めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・定期的に個人面談を実施。意見を聴取して職場環境の整備をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修、外部研修に参加できる機会を確保している。個人目標を決め自らスキルアップの努力を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	・他施設の見学、また、見学の受け入れ・地域ケア会議の出席により交流を深めています。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に面談させていただき、ご本人様の普段の生活を聞き、入居前となるべく変わらない生活を送って頂けるように配慮し、信頼関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前にご家族様の話を伺い、ご家族様の思いや要望をお聞きする。心配事苦情はいつでも対応させて頂くことをお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご相談を受けた段階で双方のお話を伺い、課題抽出と分析を行い、見学など来て頂く。サービス利用を視野に検討します。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日々の生活の中で、職員も家族の一員として共に生活を楽しみ入居者さんの出来る事を負担にならないところまで、一緒に行い豊かに暮らして頂けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族様と協力し、入居者様を支える関係を築ける努力をしています。入居者様の生活の報告、月に一度のホーム便りを送り家族との関係が途切れないように心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、活動制限はあるものの、オンラインの活用などによりこれまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	コロナ禍においても、看護職員の助言を得て馴染みの床屋や銀行等に出かけています。家族とは電話やビデオ通話、面会等で相互の安心感に繋げています。初詣の代替として用意した神社のおみくじを利用者に引いて頂くなど、昔からの習慣を大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・居室で一人の時間にならない様に、体操、掃除などの家事のお誘いをし、共に過ごす心がけを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院され退居された方には、お見舞いに行かせていただいております。退居された方にも運営推進会議や行事などにお誘いし交流する機会を持っています。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご家族様に昔好きだったこと得意だったことを伺ったり、ご本人様との日常会話や様子から思いや希望をくみ取り、月に一度のユニット会議で話し合いご本人本位の支援を検討しています。	職員は、利用者のその人らしさを捉えるのに入居時の情報は基より、個別の各種記録簿や家族から性格や趣味等を傾聴し、全体像を把握しています。外出の要望は、看護職員の指導を仰ぎ支援しています。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・新入居時にご本人様・ご家族様に生活歴・性格をしっかり聞き取りを行い全職員で周知し日々の暮らしのベースにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別の介護記録に日々の状態を記録し総合的に把握し努めています。変化のあったことは朝のミーティングでも伝え、情報共有し支援に繋げています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居者様からは日常の生活の中で、色々な話を聞かせて頂いている。その情報を集約しユニット会議で検討、ご家族様と話し合い、介護計画に反映しています。	介護計画の更新時や状態変化時には、利用者や家族の意向を尊重しています。会議で個別の記録簿や医療関係者の意見を踏まえ、モニタリングやアセスメントを経て、利用者の持てる力の維持等に対して必要な支援を話し合っています。介護記録で支援目標の実践が確認できます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の様子、食事量水分量排泄の状況、睡眠バイタル保清等のケア内容を記録しています。その中で気づいたことなどを職員が共有し実践に活かせるようにようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・複合施設である事を活かし、利用者様のニーズに合わせた事業所の選択、サービスを受けられるよう対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の方、ボランティアの協力を頂きながら本人の持っている力を発揮できるよう支援しています。町内会のゴミ拾い等にも参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご本人様、ご家族様の希望に応じて適切な医療を受けられる支援を心がけています。必要に応じて看護師の同行、往診等でも対応しています。	入居時に希望の受診先を確認していますが、現在は10名の利用者が訪問診療を受けています。外来診療は家族対応ですが、状況によっては家族の同行を要請し、職員が支援しています。看護職員の専門的視点での健康管理も行われ、健康状態は関係者と共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・常勤の看護職員配置しており、協力医療機関の医師と連携を行い、健康管理について相談をしています。緊急時は医師から指示を頂ける連絡体制を確保している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・本人及び家族等の希望を尊重しながら、看護師が十分話し合いを行った上で、適切な医療を受けられるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の対応について、ご利用者様、ご家族様の意向を確認し、多職種協議により継続的支援を図ります。医療機関と24時間体制の連携が取れています。	重度化や看取りへの対応は指針で示し、利用者や家族の意向を聴き取り同意書を得ています。主治医や看護職員の見解の下、職員は、家族と共に人生の最終章までその人らしく生活できる支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・新人研修に救命救急講習を取り入れ、全職員が実践力を身につけている。また、AEDを設置し、急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の日中と夜間を想定した避難訓練を行っています。地域の方にも炊き出しボランティアなどで参加していただき、協力を得ながら様々な場面に対応できるように訓練している。また、他の施設からの災害被災者の受け入れも行い、運営推進会議で報告し、今後に向けてのアドバイスなどを頂いております。	火災や自然災害に対処する計画書のもと、年2回、昼夜想定の避難訓練を行い、課題は次回の訓練に生かしています。発電機など災害時の必需品の備え、地域との協力体制の構築、過去には抜き打ち訓練を行うなど危機管理能力を高めています。	消防署の立ち入り検査では、不備事項はありませんでした。今後、災害対策を熟知している職員の指導の下、土嚢の作り方を学び、さらなる防災対策の強化を計画していますので、その実行に期待いたします。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、ご本人の話を傾聴し考えや希望をくみ取れるように、誠意ある対応に努めています。	接遇やプライバシー保護については研修会や業務上で学びを深め、日々実践に努めています。申し送り時や記録などの個人情報はタブレットで保管し、職員の共有としています。職員は、利用者の人生観を肯定する支援に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・わかりやすい会話を工夫し、希望や思いを確認しご本人の意思を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	・その日の体調に合わせ起床時間、食事時間、内容を多様に対応しています。個々の希望に出来る限り沿って生活して頂ける支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・月に1度理容師による訪問があり、希望者は利用できる。家族と馴染みの美容室に行ける環境も整えています。朝、入浴時には一緒に好みの服を選んで頂いています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・夏には中庭の畑で育てた野菜を収穫し、調理に使い楽しんで頂いております。ご本人様が自発的に準備や片付けに参加された時には一緒に支援しています。	献立と食事は、敷地内にある業者から届いていますが、昼食のみ畑の野菜やブドウ等を取り入れ職員と利用者による手作りの一品が添えられています。バレンタインデーには、女性利用者と一緒にチョコレートフォンデュを作って男性利用者を持てなし、おやつとして皆で食しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食の食事量・水分量を記録に残し、少ない方へご本人の好みに合わせた物を提供し不足しないよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後声掛けを行い対応しています。歯科医師による往診、馴染みの医院での送迎も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄パターンを確認し、情報を共有し自立に向けた支援に結びつくように努めています。失禁されても尊厳保持に対応させて頂いております。	ポータブルトイレを含め、トイレでの排泄を基本として尊厳に配慮した支援に努めています。状態変化時で衛生用品を使用するときは、職員間で協議しています。2ユニットごとに4ヵ所あるトイレには立位を保てる用具が設置されており、自立排泄が無理なくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・乳製品、野菜ジュースなど食物繊維を意識して提供しています。又、定期的な運動の支援や看護師による下剤の調整も行い、自然排便に向け便通調整に心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	・利用者個々の希望と、体調等を考慮して、全利用者が入浴を楽しめるよう支援している。 また入浴中の事故や急変等が起きないよう個々に沿った支援を実施。	日曜日以外は毎日入浴できる態勢にありますが、週1～3回の入浴支援を行っています。拒否がある場合は、無理強いはせず次回に繋げ、ヒバの香りが漂う浴槽で寛げるよう会話をしながら安全に配慮した支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣を大切にし、傾眠されている方には横になれる声掛けを行い適度な時間で起きて頂ける工夫をしています。夜間頻尿な方には、ご家族様と相談し受診などを考え安眠の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人一人のお薬情報、薬の内容、副作用、通院時の変更を看護師から介護員へ伝え、情報を共有し支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・毎日の生活の中で得意なことが役割として持てるよう自然な支援を心がけている。嗜好品やご意見を伺い、行事等でリクエストされた食べ物を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・今年度はコロナウイルス感染拡大防止により、自粛が多かったが利用者個々の希望に沿って、外出を実施している。	利用者の要望で実家や銀行等に出かけています。ドライブで桜見物や外来受診などで遠出もありますが、日常的には、苗植えやその成長を楽しみ、トマトなどを収穫、テラスでお茶会、花壇を眺めながら散策をして気分転換しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご本人の金銭所持はご家族様と相談させて頂き、個々に合った支援を行っています。施設内には自販機、売店もあり自己管理されている方には自由に買い物が行えます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族様同意のもとに希望に応じ、電話連絡ができるよう支援しています。手紙を書く方は少ないが年賀ハガキを出す方には郵便番号を調べるなど支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に応じて、利用者と一緒に作品を作り季節感のある装飾をしている。	共用空間は全体的にゆとりある造りで、心地良い生活環境に努めています。和室や土間で野菜を洗ったりと昔懐かしい場所も設えています。居間では一人になれるスペースで新聞を読んだり、壁には利用者の合同作品である季節飾り等が貼られており、温かみある雰囲気が漂っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・プライバシーを大事に過ごせる小スペースがいくつか作られている為、お一人の時間を作る空間もあります。廊下続きの交流館では、コーヒーなども楽しめる工夫がしてあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居前に「持ち物リスト」をお渡しして、その目的等も十分に説明した上で、馴染みの物を居室にお持ち頂くようお願いをして、心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはクローゼットや洗面台、物干しポールを設置しており、希望があれば電動ベッドも用意しています。馴染みの家具や大事な仏壇、時計やカレンダー、家族写真等が置かれ、自分の部屋として落ち着ける環境になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・出来る事、わかることを見極め、ご本人の出来る事をさりげない支援で行えるよう声掛けさせて頂いています。		